

Title	経済学年報I
Sub Title	
Author	気賀, 健三
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1958
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.51, No.3 (1958. 3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19580301-0091">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19580301-0091</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

137 大内力著 A5 三二九頁 四五〇円(中央経済社)

俊彦・大島清・大内力共著 B40 四六三頁 一二〇円(東京大学出版会)

\*レーニン選集 7 マルクス・レーニン主義研究所訳 B6 二五四頁 二八〇円(大月書店)

社会政策

世界経済・貿易

\*毛沢東選集 3 毛沢東著 毛沢東選集刊行会編 A5 三五三頁 七五〇円(三一書房)

\*日本社会保険史 佐口卓著 A5 二四七頁 四八〇円(日本評論新社)

\*国際収支と日本の成長 神谷克己著 A5 三五七頁 六〇〇円(平凡社)

\*労働者 G・D・H・コール著 和田耕作訳 B6 一四六頁 二四〇円(紀伊国屋書店)

\*資本主義諸国の国際決済と貿易金融 下 JI・VI・フレイ著 堀江正規・朝野勉編 B6 二四二頁 三四〇円(東洋経済新報社)

\*講座 社会学 4 1 家族・村落・都市 福武直・日高六郎・高橋徹編 A5 三二〇頁 二八〇円(東京大学出版会)

日本経済

経済事情

年鑑・辞典

\*現代日本資本主義大系 3 農業 大内力編 A5 三〇六頁 三〇〇円(弘文堂)

\*経済学文献季報 6 一九五七・四一六 経済資料協議会編 B5 二二二頁 五五〇円(有斐閣)

\*日本経済四季報 19 一九五七―二 日本経済調査会編 B6 一四九頁 一九〇円(大月書店)

\*日本労働年鑑 30 一九五八年版 大原社会問題研究所編 A5 七七五頁 一五〇〇円(東洋経済新報社)

\*日本資本主義研究入門 日本資本主義の矛盾の展開と運動 有沢広巳・宇佐美誠次郎・大島清・渡辺佐平編 B6 三二二頁 三三〇円(日本評論新社)

\*レーニン選集 6 マルクス・レーニン主義研究所訳 B6 二二六頁 二五〇円(大月書店)

\*日本資本主義の発展 2 楫西光速・加藤

社会思想

社会思想

社会思想

社会思想

社会思想

社会思想

慶應義塾経済学会 経済学年報 1

- 近世初期の家数人数改と役家について……………速水 融
- いわゆる「十九世紀末農業恐慌」の性格について……………常盤 政治
- 西アフリカ・マーケティング・ボード下のコア買付機構の研究……………矢内原 勝
- 巨大株式会社企業管理・利害者集団の分析……………野口 祐

慶應義塾経済学会は、本塾創立百周年を記念して、昭和三十二年度より年報を刊行することを計画し、ここにその第一集を公刊することにした。本年は、本会の刊行にかかわる三田学会雑誌が創刊以来ちょうど五十年を経過した年に当るので、年報の刊行は二重の意味で記念すべき仕事である。

経済学会は、本大学の発展と相ならんで発展し、現在三田学会雑誌のみをもってしては、会員の勉学の成果を世に問うのに不十分な状態と思われるに至ったので、本会はここに新たに年報の発刊を計画し、三田

学会雑誌に掲載しがたい論文を集めてこれを一冊の書籍とすることにした次第である。或る狭い専門分野の綿密な研究は、往々にして一般的興味を欠くものがあり、発表の機会をつかむことが困難である。本年報は経済学会会員の研究業績を集め、その数篇をえらんで、これに公表の機会を提供しようとするものであり、これによって単にわれわれ同人の研究の刺激となるばかりでなく、広く経済学の進歩に貢献することができるならば、年報刊行の意義は甚だ大きいといわなければならない。

(気賀健三)